

路地

永井荷風

青空文庫

鉄橋と渡船わたしぶねとの比較からこゝに思おもひ起おこされるのは立派な

おもてどほり表通あひだくの街路に対して其の間々あひだくに隠れてゐる路地の興味で

ある。擬造西洋館の商店並び立つ表通は丁度電車ちやうどの往来する鉄

橋の趣おもむきに等しい。それに反して日陰の薄暗い路地は恰も渡船わたしぶねの物もの

のあはれ哀あはれにして情味の深きに似てゐる。式亭三馬しきていさんばが戯作浮世床げさくうきよどこ

の挿絵よくにに歌川国直うたがはくになほが路地口のさまを描いた図がある。歌川豊と

国はその時代（享和二年）のあらゆる階級の女の風俗を描いた

絵本時勢粧いまやうかゞみの中うちに路地の有様を写してゐる。路地は其等の浮

世絵に見る如く今も昔と変りなく細民の棲息する処、日の当つた

表通からは見る事の出来ない種々さま／＼なる生活が潜みかくれてゐ

る。佗住居わびずまひの果敢はかなさもある。隠棲の平和もある。失敗と挫折と窮迫との最終の報酬なる怠惰と無責任との楽境らくきやうもある。すいた同士の新世帯もあれば命掛けなる密通の冒険もある。されば路地は細く短しいへどと雖も趣味と変化に富むこと恰も長編の小説の如しと云はれるであらう。

今こんにち日東京の表通は銀座より日本橋通は勿論上野の広小路浅草の駒形通を始めとしていたるところ到处ところ西洋まがひの建築物とペンキ塗の看板瘦せ衰へた並樹なみきさては処ところ嫌きらはず無遠慮に突立つてゐる電信柱と又目まぐるしい電線の網目のために、云ふまでもなく静寂の美を保つてゐた江戸市街の整頓を失ひ、しかも猶未なほまだ音律的な活動の美を有する西洋市街の列に加はる事も出来ない。されば

この中途半端の市街に対しては、風雨雪月せきやうとう夕陽等の助けを借るにあらざんば到底芸術的感興を催す事ができない。表通を歩いて絶えず感ずるこの不快と嫌悪の情とは一層私ひとしほをして其の陰にくれた路地の光景に興味を持たせる最大の理由になるのである。

路地はどうかすると横町同様人力車くるまの通れるほど広いものもあれば、土蔵または人家の狭間ひあはひになつて人一人やつと通れるかどうかと危まれるものもある。勿論其の住民の階級職業によつて路地は種々しゆ／＼異つた体裁をなしてゐる。日本橋ぎは際の木原店きはらだなは軒並のきなみ飲食店の行灯あんどうが出てゐる処から今だに食傷しよくしやうじんみち新道かどの名がはなつないてゐる。吾妻橋あづまばしの手前東橋亭とうけうていとよぶ寄席の角から花川戸はなかはどの路地に這入はいれば、こゝは芸人や芝居者また遊芸の師匠なぞの多

い処から何となく猿若町さるわかまちの新道の昔もかくやと推量せられる。

いつも夜店の賑ふ八丁堀北島町の路地には片側に講釈の定席ぢやうせき、

片側には娘義太夫の定席が向合むかひあつてゐるので、堂摺連だうするれんの手拍

子は毎夜張扇はりあふぎの響ひびきに打交うちまじはる。両国の広小路に沿うて石を

敷いた小路には小間物屋袋物屋煎餅屋など種々なる小売店の賑ふ

有様まさ、正しく屋根のない勧工場くわんこうばの廊下と見られる。横山町辺へんの

とある路地の中には矢張立派やはりに石を敷詰めた両側ともに長門筒ながとつ

袋物また筆なぞ製してゐる問屋ばかりが続いてゐるので、路地一

帯が倉庫のやうに思はれる処があつた。芸者家の許可された町の

路地は云ふまでもなく艶なまめかしい限りであるが、私はこの種類うちちの中で

は新橋柳橋の路地よりも新富座裏の一角をば其のあたりの堀割の

夜景とまた芝居小屋の背面を見る様子とから最も趣のあるやうに
 思つてゐる。路地の最も長くまた最も錯雑して、恰も迷宮の觀あ
 るはよしちやう葎町の芸者家町であらう。路地の内にくらづくり蔵造の質屋も
 あれば有徳うとくな人のいんたく隠宅らしい板塀も見える。わが拙せつさく作小説す
 みだ川のへんちゆう篇中にはかゝる路地の或場所をば其の頃見たまゝに
 写生して置いた。

路地の光景が常に私をして斯くの如く興味を催さしむるは西洋
 銅版画に見るが如き或はわが浮世あぢは絵に味あぢはふが如き平民的画趣とも
 云ふべき一種の芸術的感興もとづに基くものである。路地を通り抜ける
こゝろみ時試に立止つて向うを見れば、此方こなたは差迫る両側の建物に日を遮
 られてしめ湿つぽく薄暗くなつてゐる間から、彼方かななるか遙に表通の一部分

だけが路地の幅だけにくつきり限られて、いかにも明るさうに賑かさうに見えるであらう。殊に表通りの向側に日の光が照渡つてゐる時などは風になびく柳の枝や広告の旗の間に、往來の人の形が影の如く現れては消えて行く有様、丁度灯火に照された演劇の舞台を見るやうな思ひがする。夜になつて此方は真暗な路地裏から表通の灯火を見るが如きは云はずとも又別様の興趣がある。川添ひの町の路地は折々忍返しをつけた其の出口から遙に河岸通のみならず、併せて橋の欄干や過行く荷船の帆の一部分を望み得させる事がある。此の如き光景は蓋し逸品中の逸品である。

路地はいかに精密なる東京市の地図にも決して明には描き出されてゐない。どこから這入つて何処へ抜けられるか、或は何処へ

も抜けられず行^{ゆきどま}止りになつてゐるものか否か、それは蓋し其の
 路地に住んで始めて判然するので、一度や二度通り抜けた位では^{くらゐ}
 容易に判明すべきものではない。路地には往^{わうく}々江戸時代から伝
 承し来つた古い名称がある。即ち中^{なかばし}橋の狩野新道と云ふが如
 き歴史的由緒あるものも尠^{すくな}くない。然しそれとても其の土地に住^す
 み^みふる古したものゝ間にのみ通用されべき名前であつて、東京市の市
 政が認めて以て公の町名となしたものは恐らくは一つもあるまい。
 路地は即ち飽くまで平民の間にのみ存在し了解されてゐるのであ
 る。犬や猫が垣の破れや塀の隙間を見出^{みいだ}して自然と其の種属ばか
 りに限られた通路を作ると同じやうに、表通りに門戸を張ること
 の出来ぬ平民は大道と大道との間に自ら^{おのづか}彼等の棲息に適當した路

地を作つたのだ。路地は公然市政によつて経営されたものではない。都市の面目体裁品格とは全然關係なき別天地である。されば貴人の馬車富豪の自動車の地響ちひびきに午睡ごすゐの夢を驚かさるゝ恐れなく、夏の夕ゆふべは格子戸の外に裸体で涼む自由があり、冬の夜よは置炬燵いすに隣家の三味線を聞く面白さがある。新聞買はずとも世間の噂うわさは金棒引かなぼうひきの女房によつて仔細に伝へられ、喘息持ぜんそくもちの隠居が咳せ嗽きは頼まざるに夜通し泥棒の用心となる。かくの如く路地は一種云ひがたき生活の悲哀の中うちおのづかに自から又深刻なる滑稽の情趣を伴はせた小説的世界である。而して凡しかて此すべの世界の飽くまで下世話げせわな感情と生活とは又この世界を構成する格子戸、溝板どぶいた、物干台、木戸口、忍返にんげんなぞ云ふ道具立だうぐだてと一致してゐる。この点よりして

路地は又渾然たる芸術的調和の世界と云はねばならぬ。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆90 道」作品社

1990（平成2）年4月25日第1刷発行

1997（平成9）年5月20日第6刷発行

底本の親本：「荷風全集」岩波書店

1963（昭和38）年2月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

路地

永井荷風

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>